

# 平成 30 年度森林税活用事業の実施状況【全体概要】

## 1 成果目標に対する達成状況

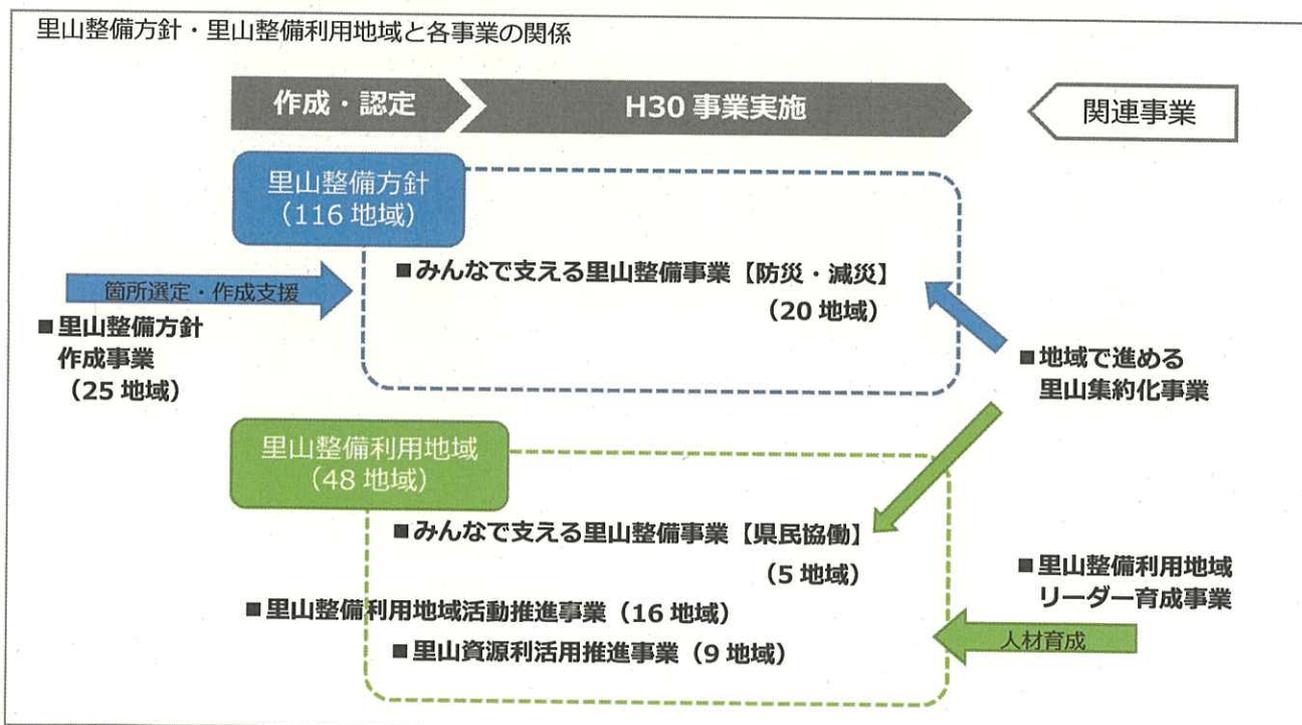
- 第 3 期森林税ではこれまでの里山整備に加えて、県民の皆様に森林税の成果をより身近に感じていただける分野に用途を拡大した。こうした新規分野の事業については、概ね計画を上回って事業を実施することができた。

項 目	H30 計画	H30 実績見込
河畔林の整備	24 箇所	37 箇所
児童センター等のキッズスペースの木質化	5 箇所	7 地域
木製家具・木のおもちゃの設置	30 箇所	57 箇所
信州やまほいく認定園のフィールド整備	8 箇所	9 箇所

- また、第 3 期森林税では里山整備の目的・方向性として「防災・減災のための里山等の整備」「県民協働による里山の整備・利用」の 2 つを柱として掲げ、それぞれ「**里山整備方針**」・「**里山整備利用地域**」で定める区域を進めることとしている。
- 平成 30 年度は、第 3 期森林税事業の基盤となる**里山の整備方針**の作成と、**里山整備利用地域**の認定に重点的に取組み、計画に対する実績は以下のとおり。

項 目	H30 計画	H30 実績見込
市町村による里山整備方針の作成	120 地域	116 地域
里山整備利用地域の認定	50 地域	48 地域

- 里山整備方針の作成、里山整備利用地域の認定は概ね目標を達成したが、その時期が年度後半に集中し、多くの地域ではその後の事業実施が次年度以降に先送りとなった。



※ ( ) 内は H30 年度事業活用地域数

※ 里山整備利用地域では一地域で複数の事業活用例があるため、事業活用地域の実数は 19 地域

## 2 平成 30 年度予算の執行状況

- 当初予算 752,478 千円に対し、執行見込（基金活用額）は 629,470 千円

\* 詳細は別紙一覧のとおり

- なお、活用額が予算を下回った要因は、事業別にみると大きく 2 つに整理できる。

(A) 新たな仕組み・制度に対応する体制整備に時間を要したものの。

(B) 成果目標を概ね達成した中で、効率的な事業実施を通じて経費縮減が図られ、予算より少ない事業費で実施できたもの。

→ (A) に係る事業は、今年度は土台づくりに力を入れた結果であり、年度末までには里山整備方針の作成や里山整備利用地域の認定が一定程度進んだため、2 年目以降は順調に進む見込み。

→ (B) に係る事業で生じた予算との差額は、引き続き第 3 期森林税活用事業全体の中で有効活用を図る。